

海の向こうから

01



現地隊員リポート①パラグアイから

2022 年度 4 次隊 青少年活動 只野 杏奈



▼自己紹介

広島市出身の只野杏奈です。趣味はものづくりです。

前職は Web 制作会社で、2019 年秋に協力隊に応募するも、世はコロナ禍となりしばらく待機状態が続きました。

派遣がようやく決まり、職場を退職し 2023 年春にパラグアイに到着しました。



▼現地での活動内容

私はパラグアイのピラポ市で活動をしています。ピラポは日系移住地で、私の配属先はピラポ日本人会です。土曜日は日本語学校、平日は附属幼稚園で活動をしています。日本語学校では、絵画や習字の授業の補助、平和学習、学校の記念誌の作成をしています。幼稚園では、図工の授業を担当しています。共通する活動としては、先生へのパソコン指導や、教材開発を行なっています。私は、先生方の痒いところに手が届くような存在になれたらと思い、活動をしています。

その他では、地元の方々と移住の歴史を残す活動も行っています。直近では平和展を任地で開催したいと思っています。平和展を通して、現在の広島の魅力とともに、過去の原爆の悲惨さや平和の尊さを、当たり前に生きられる今だからこそ伝えていきたいです。

▼生活の様子

私の下宿先は配属先から徒歩で約 10 分の場所で、一人暮らしをしています。周りには日系の方が多く住んでおり、よく野菜やお米をお裾分けくださいます。ピラポでは 1 世の方がまだご健在で日本語を母語として話すご家庭が多いです。日系の方々はパラグアイの文化を吸収し生活に馴染み、その中で日本文化を受け継いでいっています。

▼食事や文化について

アサド（肉の炭火焼き）はパラグアイのイベントに欠かせない料理です。飲み物は、テレレ（茶葉のジエルバに水を加えて飲む飲み物）が有名です。パラグアイの方々はテレレ用の水筒を持ち歩き、いつでもどこでもテレレを飲んでいます。テレレは周りの人と回し飲みもするため、パラグアイの方々のコミュニケーションツールの一つでもあります。パラグアイの方々は家族を大切にする国民性で、週末は家族とテレレを飲み、昼食にはアサドを食べて過ごす家庭が多いです。



02



現地隊員リポート②フィジーから

2023年度3次隊 理学療法士 古谷 優衣



▼自己紹介

はじめまして。呉出身の古谷優衣です。

私は5年間広島県で理学療法士として働いた後、JOCVとして、大洋州に浮かぶフィジー共和国に派遣されました。

▼派遣国について



フィジーは日本から見て南東にあり、日本より時間が3時間進んでいる国です。この国は330以上の島で成り立っているのですが、全ての島の面積を合わせても日本の四国とほぼ同じ大きさと言われています。気候は年中30℃前後です。四季はありませんが雨季と乾季があります。

フィジーの人は二つのルーツ（先住民系フィジー人・インド系フィジー人）に分かれています。それぞれが異なる文化を持ち、見た目、第一言語、食事、宗教、生活習慣、住宅環境、性格までもが大きく異なります。なので、フィジーで生活することに慣れるためにはほかの国で生活するより少々時間がかかるかもしれません、日々の生活の中でさえも二つの文化を体験できる面白い国です。

▼現地での活動内容

私は現在、障がいをもつ子供達のためのフィジー唯一のNGO団体で理学療法士として同僚達と共に働いています。仕事内容としては、外来リハビリとコミュニティ巡回（CBR）でリハビリや家族指導、環境整備を行ったり、ホステルや早期介入センターと呼ばれるNGO内の



施設とも関わったり、1週間程かけてフィジー内の子供達の家を車やボートで回るアウトリーチも行っています。

▼生活の様子

首都は高いビルが立ち並び、お店も沢山ありますが、そういった都会を感じられる場所はごくわずかです。車で20分程移動するだけですぐに景色が変わります。道路はまだまだガタガタな場所も多く、国道沿いで牛や馬がいる光景もよく目にします。そして至る所にバナナやパパイヤの木が見られます。

▼食事や文化について

フィジーの文化の一つに『Kava』と呼ばれるものがあります。これは、胡椒科の植物の根を乾燥させ、粉末にしたもので作られている飲み物です。歓迎の儀式でよく使われます。

先住民系のフィジー料理では、フィジーで採れる野菜や果物、魚を使ってコ



コナツツミルクで味付けするが多く、焚火や土の中で蒸して作ります。インド系の料理では、お馴染みのカレー料理ですね。そしてどちらの文化も共に食べ物をみんなで共有する風習があります。



03

派遣前アンケート

訓練所から派遣前の想いを任国で形にできるよう、アンケートをとりました。

現隊員のみなさん、派遣直前はどんなことを考えていたのでしょうか。

アンケート内容

①名前 ②隊次 ③職種 ④派遣国 ⑤応募したきっかけ ⑥訓練所での辛かった思い出 ⑦訓練所での楽しかった思い出 ⑧2年間の活動中に挑戦したいこと ⑨出国を控えた今の心境 ⑩これから2年間の活動に向けての意気込みを一言！

と仲間とのコミュニケーション⑧旅行⑨緊張と期待。⑩自分にできることを精一杯、頑張ります！

①福光 彩夏②2023年度3次隊③小学校教育 ④ベナン⑤海外への興味と社会貢献⑥語学⑦訓練所の美しい景色

①大西 幸子②2023年3次隊③看護師④東ティモール⑤学生の頃に黒柳徹子さんのユニセフの活躍をテレビで見

て⑥語学の毎週のテスト⑦仲間が出来て温泉や旅行に行つたこと⑧スキーバダイビングのライセンスを取りたい⑨不安半分、期待半分⑩自分に出来ることを見つけて無理をしない

①古谷 優衣②2023 年度 1 次隊(出国時期は 2023 年度 3 次隊) ③理学療法士④フィジー⑤最大の理由は、大学 4 年生の時に小林純さん(広島県 OB) 主催の東ティモールでのスタディツアーに参加させてもらったこと。⑥3 回目の狂犬病ワクチン接種後にアナフィラキシーを発症してからの日々(結果的にこれが原因で一度派遣取り消しになりました) ⑦同期の仲間と過ごす時間が毎日とても楽しかったです!! 青春そのものでした!! ⑧可能であれば、私がしてもらったように、フィジーで学生さんや JICA、海外に興味がある人に向けたスタディツアーの開催。⑨フィジー渡航日まで、1 年前には想像もしてなかつたような濃い時間を過ごしました。上手くいくことばかりでは無かつたけれど、だからこそ以前は気が付いていなかつた様々な人からの支えや応援に気づくことができました。結果的に今は、人生無駄なことなんて無いのかもしれないな~と思えるようになっています。フィジーで色々な出会いを経験してきます!! ⑩誰かに夢や希望を与えられるような 2 年間を過ごしてきます!

①松岡 麻依子②2023 年度 3 次隊③コミュニティ開発④マダガスカル⑤友人が協力隊で活動していた際に任地を訪れ、活動を見学させてもらい、私もやってみたいと思ったから⑥訓練規則を違反してしまい、その様子が防犯カメラに映っていたこと。後日、事情説明し顛末書を提出した後、所長面談で反省の意と規則のある意味、目的を十分に理解した旨を伝え任国での活動の際にその反省を生かすことを誓った⑦たくさんあるのですが、特筆したいのは語学最終試験に全員合格してその日の夕食の際に食堂で皆で泣きながら喜んだこと。⑧原爆展を開催することと、広島風お好み焼きを作るワークショップを開き、本場の味を紹介した上で現地の好みに合わせて広めていける

味を追求したい。⑨わくわくが勝っています。しかし元日からの能登半島地震の被災状況を知るたびに自分にできることはないかと考え、出国前ギリギリまで災害ボランティアとして現地で活動し、日本国内でできることをやり切ってから出国したい。⑩マダガスカル語とフランス語を日々学びながら現地での文化や習慣を肌で感じていきたい。その上で広島の良さ、日本の良さを伝えて興味を持つてもらう活動をしたい

①岡田 佳奈②2023 年度 3 次隊③美容師④モロッコ⑤日本で美容師をする以外に何か出来ないか考えていた時に、お客様で協力隊経験者の方と出会い興味を持ったから⑥語学が初めて勉強するフランス語だったので、楽しかったけど大変だった⑦今回の訓練を通して知り合った人たちや班の人たちとご飯を食べたり出かけたり、何気ない毎日がとても楽しかった⑧語学をもっと伸ばしたり、現地の人たちと交流したい⑨パッキングがとにかく大変⑩楽しいことも大変なこともたくさんあると思うけど、人生の中でとても大事な 2 年間になると思うのでとにかく毎日を楽しんで活動したいです!

①田川 夏美②2023 年 3 次隊③コミュニティ開発④ガーナ⑤コロナもそうでしたが、今地球には、世界の国々で協力して取り組んでいかないといけない課題が沢山あると感じており、一度自分も世界に出て日本ではない国で生活し活動し色々なことを感じ考え取り組んでみたいと思ったからです。⑥辛いことではないのですが、語学訓練は英語の一番成績下のクラスだったので語学訓練に最終的に合格出来るかいつもドキドキしていました。⑦語学訓練の最終試験の合格発表の瞬間に訓練所の所長さんが教室にお祝いに来てくださって、「このクラスは頑張ったね」と言ってくださいり、クラスメイトの子と二人で嬉しさと感動で大泣きしたのが、大切な思い出です。⑧任地で友達

をつくりたいです！それと出来れば任国で原爆展を開催出来たらと思います。⑨ワクワクしています。⑩送り出し応援してくださる沢山の方々への感謝を忘れず、自分を大切にしながら、自分らしく活動し、2年後にただいまと元気に笑顔で帰国出来たらと思います！

①藤井 里奈②2023 年度 4 次隊③看護師④ガボン⑤開発途上国に住んでみたかったから⑥自分のペースで生活できないこと⑦いろんな経験をした人たちと出会えたこと⑧ガボンでしかできないこと⑨語学が不安です⑩なんとかなるさー！

①井手 豊②2024 年度 1 次隊③体育④タンザニア⑤海外での教育活動を行ってみたいと考えていたから。⑥語学学習を続けたが、なかなか学力が向上しなかったこと⑦振り返ってみると、日々の活動の全て。どれかというような具体的なものは挙げにくい。⑧要請内容の達成と、広島と現地の交流の足掛かりとなるような機会作り⑨色々と

準備をして現地の方々と広島の方々の思いに応えたい。

⑩これまでの経験を整理し、現地の要請以上に活動が出来るように頑張りたい。

①黒瀬 千紘②2024 年 1 次隊③小学校教育④パラオ⑤自分の経験値を上げたいと思ったからです。⑥特にありません。⑦語学学習や休日に訓練所の友達とキャンプなどをしたことです。⑧ダイビングを 30 本以上潜りたいです！⑨すごく楽しみです！⑩しっかり楽しんで、たくさん吸収してきます！

①中本 千晶②2024 年度 1 次隊③看護師④ベナン⑤幼い頃から国際協力に興味があったため⑥特にありません⑦語学クラスの仲間と一緒に勉強に励んだこと⑧ブレイズヘアをしてみたいです⑨どんなことが待ち受けているのか、とても楽しみです。⑩今まで出会って来た方々に感謝し、派遣国への尊敬と、何が起こっても楽しむ気持ちを忘れずに活動していきたいです。

04

協力隊 OB 会 活動レポート

親睦会@ビヤガーデン

皆様、こんにちは！

2024 年 5 月 25 日 (土) に fabbit (ファビット) 広島駅前のイベントスペースにて開催された JICA ボランティア 2024 年度春募集説明会の日にあわせて、夕方から広島県 OB 会の親睦会を開催しました。会場は fabbit の近くにあるデパート広島駅前福屋の屋上ビヤガーデン。お天気にも恵まれ、まさにビヤガーデン日和となりました。

OB で広島県議会議員の上野寛治さん(H21-2 ドミニカ 音楽)も駆け付け、JICA 中国、村岡所長の乾杯の音頭のもと、ビヤガーデンの賑やかで明るい雰囲気の中、愉快で楽しいひとときを過ごしました。

今回の親睦会では、JICA 中国の塗木さんの後任として新たに加わった佐藤さん、そして JOCA×3 の羽熊さんの



後任の堀田さんの歓迎会も行いました。新しい仲間を温かく迎え入れることができ、参加者同士の交流が一層深まりました。また広島県 OB 会に新しく入られた方々や、これから訓練所に入る隊員候補生、JICA ボランティアに興味を持っている方々も参加され、お互いの経験や熱い思いを語り合い、和気藹々とした雰囲気の中で新たなつながりが生まれました。先の募集説明会の活動報告や個別相談で活躍した OB 達も、屋外で飲む美味しいビールで存分に喉を潤しました。

参加者からは「仲間と会えて嬉しい」「楽しい時間を過ごせた」「またぜひやりましょう」といった声が多く寄せられました。

来年は、協力隊派遣開始から 60 年を迎えます。60 周年を記念して、広島県 OB 会としても、同窓会のようなイメージで、広島に縁のある関係者や OB 達、そのご家族の方々も、みんなで楽しめるイベントが何かできればいいな、と考えております。詳細など決まりましたら、広島県 OB 会の Facebook やメーリングリストでお知らせいたしますので、どうぞお楽しみに！

それでは、また地球の何処かでお会いする時まで 皆様どうぞお元気で！

Love & Peace from HIROSHIMA

井上和恵（平成 14 年度 1 次隊／タイ／青少年活動）



05

PICK UP! 協力隊 OB

地域に暮らす外国人の日本語教室

私は協力隊から帰国後、仕事の合間にインドシナ難民と留学生に日本語を教えていましたが、1990 年の入管法改正後、広島でも日系 2 世 3 世の人たちが急増し、複雑な問題が増えました。労働問題もありましたが、家族、子どもたちの日本語と学校教育、進学問題も深刻でした。

現在は地域で暮らす外国人が学ぶ日本語教室を開いています。

三原市円一町、三原市久井町、尾道市御調町の3か所で日本語教室を開設しともに学んでいます。教室の名前も「みはら国際交流サロン、日本語クラブ、みつぎ日本語クラブ」とそれぞれです。地域で募集したボランティアさんと一緒に日本語学習の支援をしています。現在教室で学んでいる外国人は工場や農園で働く技能実習生、日本人の配偶者、日本企業で働く日系2世3世とその家族、ALTなど様々です。



スマートフォンの翻訳アプリが普及し生活に便利なことも増えましたが、会社や地域で日本語を学ぶ機会はほとんどありません。せっかく日本を選んで来てくれた人たちの日々の生活、こどもたちの学校生活はどうだろうといつも気がかりです。

教室では日本語を学ぶだけでなく日本の四季を楽しむ「お花見、蛍狩り、紅葉狩り、初詣」などに出かけることもあります。地域の祭りに依頼されて「アジアの屋台」を出店し、好評で楽しく地域交流もしています。今年は地域の文化協会主催の神楽公演にも招待していただき公演後の交流もありとても楽しく過ごすことができました。



しかし可能なら、「となりに住む外国人」として、ご近所や勤務先のみなさんと交流を深めることができ一番だと感じています。日本人のほとんどが日本語ボランティアは初めてですが、学ぶ外国人と交流が深まるにつれ、毎週楽しみにされるようになってきています。

教室へ来る外国人の目的は一人一人異なります。文法や漢字を学びたい人、日本語能力試験の受験対策をしたい人、日本語で会話をしたい人など。日本の生活で困っていることや職場での悩みなどの相談もあります。日本語を話す機会がほとんどない人もいます。地方の交通手段は不便です。多くは自転車で、徒歩で30分以上かけて教室に通ってくる人もいます。



教えるのではなく、相談にのる、一緒に考えることを大事にし、楽しく過ごす時間になり、地域の居場所になることを念頭に置いています。

協力隊派遣国での生活を思い出して、彼ら彼女たちとの日本語学習と一緒に楽しみませんか。

木村宣子 (昭和52年度1次隊(前期) / シリア / 陸上競技)

2017 年度 1 次隊でラオスに PC インストラクターとして派遣された花岡早織です。任期終了からあっという間に 5 年が経ちました。帰国した直後は「5 年後、10 年後私はどこで何をしているんだろうなあ」と考えていましたが、まさか元派遣国に出戻り、現地企業で働くことになるとは想像もしていませんでした。今回の会報誌はラオスで制作をさせていただきました。協力隊の日々もかけがえのない時間でしたが、協力隊が終わった後も面白い人生は続くのだなと実感する毎日です。それぞれの場所で、広島魂で頑張りましょう！

家族連絡会・総会のお知らせ

2025 年 2 月 15 日（土曜日）に家族連絡会・総会を開催します。お久しぶりの方も、初めての方もぜひお越しください！場所は、広島市留学会館です。11 時過ぎから準備を行い、家族連絡会は 13 時～15 時、総会は 15 時過ぎ（家族連絡会が終わり次第）開始となります。

総会の議決権は、会費（2,000 円／年）を支払った人が有します。

会費を支払っていないなくても、総会やイベント等には参加ができます。積極的にご参加ください。

広島県 JICA デスクからのお知らせ

来年は協力隊発足 60 周年です！ 記念すべき 60 周年を広島県でもお祝いしたいと思っていますので、アイディアを募集しています。地元でこんなことできるのではないか？こんなことしたらおもしろいのでは？など、なんでも OK !

60 周年の節目を楽しくお祝いしましょう♪



広島県 JICA デスク 推進員 新庄芳菜恵

jica_hiroshima_desk@jica.go.jp 080-2934-8494

最新情報は JICA 広島デスク Facebook ページから！

青年海外協力隊 広島県 OB 会 連絡先

会長：竹内英祐(平成 20 年度 4 次隊 ウガンダ 土木) / 事務局長：上野寛治(平成 21 年度 2 次隊 ドミニカ国 音楽)

会報誌担当：花岡早織(2017 年度 1 次隊 PC インストラクター)

メールアドレス：info@jocv-hiroshima.sakura.ne.jp (お問い合わせはこちらへ)

任国滞在中の広島県出身隊員数：18ヶ国 24名(2024年12月末時点)

青年海外協力隊広島県 OB 会会報誌 第 45 号 2024 年 12 月発行 編集・発行：青年海外協力隊広島県 OB 会 (原則)毎年 1 回発行